（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（南信州地域）

令和７年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	天龍峡工場復活ＰＪ
事業主体 （連絡先）	天龍峡工場復活ＰＪ 飯田市龍江7456-3
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大　ア　特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	4,650,018　円（うち支援金：3512000円	本事業は、飯田市の空き家（廃工場&隣接する2階建住宅）を活用し、若者向けの「関係人口案内所」としての機能を備えたコワーキングスペース兼移住お試し住宅を運営するものです。

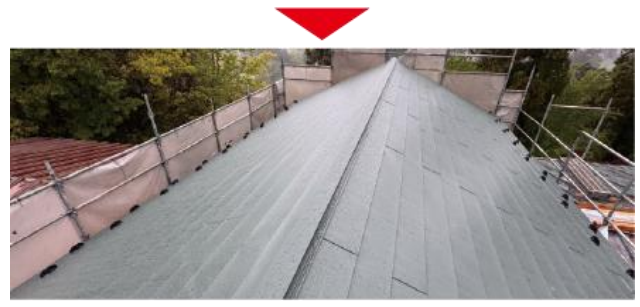
事　業　内　容

本事業は、飯田市の空き家（廃工場&隣接する2階建住宅）を活用し、若者向けの「関係人口案内所」としての機能を備えたコワーキングスペース兼移住お試し住宅を建築するものです。
また、ワークショップも積極的に行い、DIYの知識を啓発して各地で古民家活用の敷居を下げるとともに、移住促進に繋げることを目的としています。

・屋根の補修
・既存エアコン撤去
・新規エアコン設置
・壁漆喰塗りワークショップの開催(現地開催)
6月14日　7名参加
7月26日　22名参加









既存の下地を残した建築確認申請不要なカバー工法による
屋根の修繕工事（野地板は既存のまま瓦を撤去、不陸調整、金属屋根葺き替え）

既存エアコンの撤去および、エアコンの新設



6/14 壁塗りワークショップの開催



7/26 壁塗りワークショップの開催

事　業　効　果	目標と狙い
①安全性の確保： 遊歩道への落下リスクがあった老朽化した瓦屋根の補修を完了した 。これにより、年間約６００名（観光統計・現地観測等に基づく推計）が通行する天龍峡国定公園内の安全性を確保し、地域の負の遺産となるリスクを解消した 。 ②コミュニティの熱量： 3つのコミュニティが週3回、月間約12回ペースで拠点利用を開始している 。延べ利用人数は月平均10名にのぼり、地域住民と都市部からの来訪者が施設内で日常的に交流する環境が整備された 。エアコン設置による通年利用の実現が、この継続的な交流を支えている 。 ③ワークショップの参加者のうち一名が、先輩移住者との交流の中からワークショップを通して現在移住を検討開始。現在地域の案内や物件の下見を調整中。 ④地域住民からの信頼獲得： 近隣の10世帯を対象に実施したヒアリングでは、「廃工場が明るくなり安心した」という声が多数寄せられた 。ワークショップ時にも地元住民から差し入れや助言をいただくなど、単なる施設整備を超えた地域融和が図られている 。 ⑤外部機関・企業との連携： 東京の企業2社の内見に留まらず、飯田市役所やAirbnb社との共催イベント「エアビースクール」の会場として採択されるなど、公共性の高い拠点として外部から高く評価されている 。DIYワークショップ（2回で計29名参加）の成功は、同様の空き家活用を目指す他地域へのモデルケースとしても機能し始めている 。	1. 安全性の確保と観光資源の保護 【狙い】 天竜峡国定公園という公共性の高いエリアに隣接する民間施設として、老朽化による公衆への危険（瓦の落下等）を未然に防ぎ、地域の安全管理責任を果たすこと。 【目標】 「負の遺産」となりつつあった廃工場の外装を修繕し、年間約600名の観光客が安心して通行できる環境を整備するとともに、地域全体の景観維持と安全性の向上に寄与する。 2. 多様な主体が混ざり合う「通年型」交流拠点の構築 【狙い】 季節や天候に左右されず、地域住民と都市部からの来訪者が日常的に集える「サードプレイス」を創出すること。特に、ハード面（エアコン等）の整備により利用のハードルを下げること。 【目標】 週3回以上の高頻度な拠点活用を定着させ、月間延べ10名以上の多様な属性（住民・クリエイター・起業家等）が自然に交流し、新たなコミュニティ活動が自走する状態を作る。 3. 関係人口から定住人口への転換（具体的移住プロセスの構築） 【狙い】 単なる「観光」で終わらせず、ワークショップや先輩移住者との対話を通じて、飯田市での生活を具体的にイメージできる「伴走型」の移住支援導線を作ること。 【目標】 本プロジェクトの参加者から、具体的な移住検討者（物件探し・地域案内フェーズ）を1名以上輩出し、関係人口を実効性のある移住・定住へと繋げるモデルケースを構築する。 4. 地域融和による「安心」と「信頼」の醸成 【狙い】 「何を住民が不安に思っているか」をヒアリングを通じて把握し、放置されていた廃工場を「人の気配がする明るい場所」に再生することで、近隣住民の心理的な安全性を確保すること。 【目標】 近隣10世帯を含む地域コミュニティとの信頼関係を構築し、単なる施設の運営者ではなく、地域行事や日常的な協力関係（差し入れや助言等）が得られる「地域に根ざした拠点」として認知される。 5. 外部パートナーシップによる拠点価値の最大化と展開

	【狙い】 自社リソースのみに閉じず、行政や大手プラットフォーマー（Airbnb社等）との連携を通じて、施設の公的な信頼性を高め、都市部企業を呼び込むための「実証フィールド」として位置づけること。 【目標】 外部企業や団体によるイベント採択や内見実績を積み上げ、本プロジェクトを「飯田市における空き家活用の成功モデル」として確立し、他地域への展開可能性を示す。
今後の取り組み	自己評価
今後の取り組み方針：地域循環型「関係人口・移住促進」プラットフォームの確立本事業により、天龍峡における「滞在」「仕事」「交流」の基盤が整いました。今後はこれらをソフト面で機能させ、以下の3つの指標を軸に地域経済への貢献を最大化します。 1. 滞在時間の延伸と回遊性の向上（観光・経済波及）天龍峡が「通過点」から「目的地」へと変わるための施策を展開します。カフェテラス・観光休憩所の本格運用地域住民と観光客が交わる「縁側」機能を強化し、観光客の平均滞在時間を現状より30分以上延伸させることを目指します。 数値目標：＊年間利用者数：2,000人以上 地域店舗への送客数：月間50件以上（周辺飲食店・商店への案内実績） 2.「仕事」をフックにした関係人口の創出（働き方改革・産業振興）コワーキングスペースおよびサテライトオフィスの稼働率を高め、都市部人材と地元企業の接点を作ります。ワーケーションプログラムの開発断熱工事完了後の快適な執務環境を活かし、法人合宿やフリーランスの長期滞在を誘致。 数値目標：サテライトオフィス契約数：2社以上 コワーキングスペース月間延べ利用者数：100名以上（地域外利用率30%を目標） 3. お試し移住から定住へのシームレスな支援（人口対策）「お試し移住住宅」の運用を開始し、飯田市への移住検討者の着地地点となります。伴走型移住サポートの実施代表・渡邉の移住相談実績（計6世帯誘致済み）を活かし、HIGASA滞在中に地域の空き家見学や地域住民とのマッチング機会を提供します。 数値目標：お試し移住利用者数：年間12組以上本市への移住決定（HIGASA利用者）：年間2世帯以上 4. 地域課題解決型コミュニティの育成（持続可能性）若手地元メンバーと移住者が協働する「HIGASAコミュニティ」を公式化し、継続的な活動基盤を構築します。クラウドファンディングおよび独自収益の確保現在実施中のクラウドファンディング（目標達成に向けた活動）を通じ、地域住民の「自分事化」を促進。補助金に頼らない自走可能な運営体制を確立します。 数値目標：コミュニティメンバー（協力者）数：30名以上 自主事業収益比率：3年以内に運営費の100%確保	※自己評価【Ａ】 【理由】 ①安全性の確保：遊歩道への落下リスクがあった老朽化した瓦屋根の補修を完了した 。これにより、年間約600名（観光統計・現地観測等に基づく推計）が通行する天龍峡国定公園内の安全性を確保し、地域の負の遺産となるリスクを解消した 。 ②コミュニティの熱量：3つのコミュニティが週3回、月間約12回ペースで拠点利用を開始している 。延べ利用人数は月平均10名にのぼり、地域住民と都市部からの来訪者が施設内で日常的に交流する環境が整備された 。エアコン設置による通年利用の実現が、この継続的な交流を支えている 。 ③ワークショップの参加者のうち一名が、先輩移住者との交流の中からワークショップを通して現在移住を検討開始。現在地域の案内や物件の下見を調整中。 ④地域住民からの信頼獲得：近隣の10世帯を対象に実施したヒアリングでは、「廃工場が明るくなり安心した」という声が多数寄せられた 。ワークショップ時にも地元住民から差し入れや助言をいただくなど、単なる施設整備を超えた地域融和が図られている 。 ⑤外部機関・企業との連携：東京の企業2社の内見に留まらず、飯田市役所やAirbnb社との共催イベント「エアビースクール」の会場として採択されるなど、公共性の高い拠点として外部から高く評価されている 。DIYワークショップ（2回で計29名参加）の成功は、同様の空き家活用を目指す他地域へのモデルケースとしても機能し始めている 。